

台風が来たら！（台風に備えて!!）

台風が接近してきたら、情報の収集に努め、事前対策を立てましょう。
行政が発表する情報にも注意し、対応が遅れないように準備しましょう。
事業所の建物全般の事前点検を行い、暴風雨などへの備えを行いましょよう。
台風の規模、進路予想で被害想定を行い、対策を立てましょう。
被害が出たら、応急処置を施し、被害の拡大を防ぎましょう。
海岸地帯では、高潮に注意し、予防対策を行いましょよう。

地域住民に影響を及ぼす被害が出た場合は、即時、行政に通報し、住民への広報に努めましょよう

被害状況は、行政に報告ましょよう。

台風の大きさと強さ（気象庁の資料から）

気象庁は、台風の勢力を示す目安として、次の表のように台風の「大きさ」と「強さ」をそれぞれ5段階で表現ましょよう。

「大きさ」は、平均風速 15m/s以上の風が吹いている半径で、「強さ」は、最大風速で区分ましょよう。

台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて勢力を示ましょよう。

例えば、「小型で強い台風」の場合、「小型」でも中心付近の最大風速は33~43 m/sあり、風速25m/s以上の暴風域を伴ましょよう。

ですから、このような台風が接近ましょようすると、今まで穏やかであった天気が急激に悪化し、風が強まるとましょよういうことましょようになります。「小型」だからと油断は禁物ましょようです。

〔強さの階級分け〕

階級	最大風速
弱い	17m/s以上 25m/s未満
なみの大きさ	25m/s以上 33m/s未満
強い	33m/s以上 44m/s未満
非常に強い	44m/s以上 54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

〔大きさの階級分け〕

階級	風速15m/s以上の半径
ごく小さい	200km未満
小型（小さい）	200km以上 300km未満
中型（なみの大きさ）	300km以上 500km未満
大型（大きい）	500km以上 800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

台風は、巨大な空気の渦巻きになっており、地表付近では反時計回りに強い風が吹き込んでいます。

進行方向に向かって右の半円では、台風自身の風と台風を移動させる風が同じ方向に吹くため、風がさらに強くなります。

そのため、住んでいる場所の西側を台風が通過するときは、風に対する警戒がより一層必要となります。

また、台風が接近してくる場合、進路によって風向きの変化が異なります。

台風の中心が西側を通過する場合は「東→南→西」と時計回りに風向きが変化し、東側を通過する場合は「東→北→西」へと反時計回りに変化します。

地形や建物などの影響により、必ずしも風向きがこのようにはっきりと変化するとは限りませんが、家周りを補強する際などの参考になります。